

鉄鋼環境 基金ニュース

令和7年4月1日

第80号

主な掲載内容

- I. 第46回(令和7年度)環境助成研究の募集について
- II. 令和6年度 環境助成研究 成果報告会のご案内

I. 第46回(令和7年度)環境助成研究の募集について

(公財)鉄鋼環境基金は3月4日(火)に第64回通常理事会を開催し、令和7年度の事業計画を決定いたしました。本事業計画に基づき令和7年度の環境助成研究を募集いたします。

募集期間は4月～5月の2ヶ月間で、技術委員会による選考審査を経て、10月中旬に開催予定の理事会で助成研究テーマを決定いたします。

助成研究募集要綱の概要は下記の通りです。詳細は当財団のホームページに掲載しておりますが、鉄鋼業のカーボンニュートラルへの取り組みを促進させるために地球環境問題および資源循環の研究分野に重点をおいて助成を実施いたします。

1. 募集期間

令和7年4月1日から5月31日まで

2. 応募資格

- (1) 一般研究:原則として日本国内にある組織に所属する研究者。
- (2) 若手研究:日本国内にある組織に所属する研究者で、令和7年4月1日時点において、次のいずれかに該当する者が主体的に研究を行う研究代表者(申請者)であること
 - ① 満年齢39歳(2年計画で申請する場合は38歳)以下の者
 - ② 博士号取得後8年未満(2年計画で申請する場合は7年未満)の者

★若手研究応募資格者でも一般研究助成に応募することができます。

★大学院生等の学生でないこと(所属する研究機関において研究活動を行うことを本務とする職に就いている者(例:大学教員や企業等の研究者など)で、学生の身分も有する場合を除く)。

★応募は一人一件とします。

3. 助成研究の対象

鉄鋼業に関連する環境保全技術課題に関する研究を助成対象とします。具体的な課題については、4.に、また、この中で特に関心のある技術課題については、5.に示します。

環境技術に直結しない材料開発・装置開発等の研究は助成の対象としません。ただし、若手研究については、より基礎的な研究、より広義の環境研究についても助成対象とします。

なお、人を対象とした侵襲研究やそれに準ずる研究の場合、文部科学省と厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に沿っていない研究は助成対象から外します。

4. 環境保全技術課題の具体例

(1) 地球環境問題

- ① カーボンニュートラル実現に向けた革新的基盤技術（CCS、CCU、水素製造・利用含む）
- ② 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- ③ 未利用エネルギーの有効活用技術
- ④ 地球温暖化に対する適応適応策（温室効果ガスの吸収・削減含む）
- ⑤ 鉄鋼製造プロセスにおける環境汚染物質発生抑制技術

(2) 資源循環技術（副産物、廃棄物の利用促進技術・効率的処理技術）

- ① 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術
- ② 鉄鋼ダスト、鉄鋼スラッジ、鉄鋼スラグ、廃レンガの減量化、減容化、再利用技術
- ③ プラスチックリサイクルなど循環型社会形成に資する技術
- ④ 他産業の副産物及び廃棄物の鉄鋼業への有効利用技術

(3) 大気環境保全技術

- ① 光化学オキシダント対策技術・PM2.5対策技術および測定技術・影響評価
- ② 大気環境対策技術の省エネルギー化、低コスト化、高効率化、気候影響
- ③ 水銀等重金属類の低減技術

(4) 土壌・水質保全技術

- ① 水処理技術の高効率化、排水中重金属等の除去・回収技術および測定技術・影響評価
- ② 土壌・地下水汚染に関する浄化技術および測定技術・影響評価
- ③ 閉鎖性海域の環境対策技術

5. 特に関心のある技術課題（重点課題テーマ）

上記技術課題の中で、現在、鉄鋼関連で特に関心があるのは以下の課題です。

- ① カーボンニュートラル実現に向けた革新的基盤技術（CCS、CCU、水素製造・利用含む）
- ② 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- ③ 未利用エネルギーの有効活用技術
- ④ 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術
- ⑤ プラスチックリサイクルなど循環型社会形成に資する技術
- ⑥ 光化学オキシダント対策技術および測定技術・影響評価

6. 研究期間

助成研究の実施期間は、原則として令和7年11月から令和8年10月までの1年間とします。

一般研究は、3年まで、若手研究助成は2年まで継続申請ができます。ただし、採否の決定は年度毎に決定しますので、継続申請が必要です。また、研究期間の延長は原則認めません。

7. 助成件数

一般研究助成及び若手研究助成合計で50～60件程度とします。

地球環境分野と資源循環分野への助成を全体の概ね1/2以上を目安とします。

8. 助成金額

(1) 助成総額 7,500万円（昨年度と同じ）。

(2) 一般研究助成 1件当たり150万円/年以下とします。

ただし、3年目の継続研究は原則として1件当たり100万円/年以下とします。

(3) 若手研究助成 1件当たり100万円/年以下とします。

ただし、地球環境問題の研究は、若手研究であっても1件当たり150万円/年以下とします。

9. 助成研究の選考ならびに選考結果の公表

本財団に設置している技術委員会の選考結果に基づき、10月下旬頃の理事会で決定します。選考結果は本財団のホームページで公表します。

10. 申請手続き

定められた様式の申請書を作成の上、E-mailで本財団に提出してください。申請書の作成方法、その他詳細については、令和7年度環境助成研究募集要綱によるものとします。

11. 申請書の提出期限

申請書の提出期限は令和7年5月31日必着とします。

II. 令和6年度 環境助成研究 成果報告会の開催案内

助成研究成果報告会は、研究テーマの地球環境分野、副産物分野、大気分野、土壌・水質分野の各分野ごとに開催しています。

今年度は地球環境分野をテーマに、令和2年度から令和4年度までに終了された中から、関心のあるテーマを4件選んでの開催となりました。報告テーマを以下に記載します。

令和7年4月16日(水)13:30~17:00 鉄鋼会館7階704会議室

<プログラム>

(敬称略)

13:30	開会挨拶・司会 (公財)鉄鋼環境基金 専務理事・事務局長 亀谷 岳文	
13:35 ~14:20	イオン液体含浸 MOF の新規創製: 超臨界流体法によるアプローチ 〔令和3~令和4年度 若手研究〕	広島大学大学院先進理工系科学研究科 化学工学プログラム 准教授 宇敷 育男
14:25 ~15:10	二酸化炭素を固定する高密度高分散 モリブデンクラスター触媒開発 〔令和3年度 若手研究〕	公立千歳科学技術大学理工学部 応用化学生物学科 准教授 脇坂 聖憲
	(休憩 10分)	
15:20 ~16:05	ゼロカーボンを実現する 炭素循環製鉄原理の創成 〔令和3~令和4年度 一般研究〕	東北大学大学院環境科学研究科 先端環境創成学専攻 教授 村上 太一
16:10 ~16:55	高効率・高選択的な CO2 変換のための バイオミメティック触媒の開発 〔令和4年度 一般研究〕	(国研)産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 グループ長 三重 安弘 (WEBでのご参加)
16:55 ~17:00	全体を通して。講評 閉会挨拶	

鉄鋼環境基金ニュース第80号

令和7年4月1日発行

発行所:(公財)鉄鋼環境基金

URL:<http://sept.or.jp/>

発行人:専務理事・事務局長 亀谷岳文

E-mail:sept.serumu@sept.or.jp

〒103-0025東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6階

Tel:03-5652-5144、Fax:03-5641-2444